

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 二坂佑佳さん

# しものせき キッズページ



## 「田中絹代ぶんか館(市立近代先人顕彰館)のはなし」



▲2階田中絹代記念館では、田中絹代の活躍を動画やパネルで紹介。絹代が受賞したベルリン国際映画祭のトロフィーもあります。

皆さんは、下関出身の偉大な女優・田中絹代を知っていますか。今回は、田中絹代と田中絹代ぶんか館について紹介します。

**ぶんか館の歴史**

田中絹代ぶんか館は、大正13(1924)年に建てられた当初は電話局舎でした。昭和44(1969)年に下関市のものとなり、市役所の別館として使われていました。時が進むにつれ建物が古くなってきたため、平成2(1990)年に解体の方針が決定しましたが、大正末期から昭和初期にかけて全



国に建てられた電話局舎は、この建物しか残っていないなかったため、市民の強い要望により、この建物を保存することになりました。当時のヨーロッパの建築に影響を受けた室内は、シンプルでモダンなデザインとなっています。

平成14(2002)年には下関市有形文化財に指定されました。その後、建物の使い方が考えられた結果、平成22(2010)年に田中絹代ぶんか館が開館しました。

**田中絹代を知っていますか?**

田中絹代は日本を代表する大女優であり、女性で2人目の映画監督となった人です。

1924年に「元禄女」で映画界デビューし、1939年「愛染かつら」の主演「かつ枝」役で大ヒット。戦後は演技が上手な女優として活躍し、ベルリン国際映画祭主演女優賞など、多くの演技賞に輝きました。

監督になるために、絹代は女優業を続けながら監督としての技量を磨いていきました。しかし、女性が活躍することが珍しかった当時は風当たりも強く、「女優のお遊び」と見られることもありましたが、応援してくれる人もいました。

つらい思いもしていたようです。作品「恋文」でデビューした絹代は生涯で全6作品の映画を監督するとともに、女優としても活躍を続けていきました。絹代は67歳でその生涯を閉じました。今は中央霊園で静かに眠っています。

**館内には何が展示されているの?**

ぶんか館では、下関市にゆかりのある近代以降の文学者とその作品、下関が登場する作品を紹介しています。1階では、直木賞作家や芥川賞作家など、多くの文学者を紹介しています。中でも、名誉館長の直木賞作家・古川薫氏が実際に使っていた机やパソコン、直筆の手帳などが置かれており、執筆の情景をつかうことができます。

2階には田中絹代の家具・道具や衣服などの遺品をはじめ、出演作の台本、ポスター、写真など貴重な映画資料がたくさん展示されています。写真や実際に使っていた帽子などを見ることができ、お見所の一つです。初めて田中絹代ぶんか館へ行く人でも楽しめる場所です。

●田中絹代ぶんか館(☎250-7666)  
住所 田中町5番7号



6月号の編集記者(前列左から) 坂本啓彰さん、井上一樹さん、安藤壮志さん



▲1階ふるさと文学館では、直木賞作家の古川薫氏ら下関にゆかりのある文学者などを紹介。



▲田中絹代賞がある「毎日映画コンクール表彰式」の様子も見ることができます。